

住民による瀬戸内国際芸術祭の評価

—— 豊島を事例として ——

原 直 行

はじめに

本研究の課題は、これまでの瀬戸内国際芸術祭（以下、瀬戸芸）をその会場となった島の住民がどのように評価しているのかの検討を通じて、瀬戸芸の地域活性化における意義を明らかにすることである。

2010年に第1回瀬戸芸が開始され、2019年では第4回が開催された。第4回は118万人と最多の来場者数となり、しかもその23.6%が外国人、経済波及効果（推計）も180億円と過去最高となった。⁽¹⁾今や瀬戸芸は、日本を代表する世界的なアートフェスティバルとなり、各地で同様のアートプロジェクトが行われている。一方で、瀬戸芸は単なるアートフェスティバルにとどまらない。これまであまり観光地として見られてこなかった過疎化、高齢化の進む島しょ部を舞台にして作品展示やイベントが行われ、多くの観光客が島しょ部を訪れるようになった。また、作品制作にあたってはアーティストや様々な活動を支えるボランティア組織のこえび隊も島に入り、訪問を重ねて一部では関係人口ともいうべき存在になっている。さらに、近年では都市部などから若い移住者が増え、宿泊施設や飲食施設も増えて、島しょ部に新たな一面が加わっている。このような地域活性化、地域づくりのための事業としても注目を浴びている。

筆者は10年前に第1回瀬戸芸が行われた2010年12月と翌2011年1月に豊島の一集落で、聞き取り形式のアンケート調査を実施した。住民にとっての瀬戸芸

(1) 瀬戸内国際芸術祭実行委員会（2020）を参照。日本銀行高松支店・瀬戸内国際芸術祭実行委員会（2020）「「瀬戸内国際芸術祭 2019」開催に伴う経済波及効果」を参照。

の意義を明らかにすることを目的とした。それから10年が経ち、豊島の住民が10年間の瀬戸芸をどのように評価しているのかを検討することが、これまでの10年を住民視点から総括し、これからの瀬戸芸、島しょ部の地域づくりのためにも重要であると考えられる。そこで、前回の調査と同様に、豊島の住民を対象に瀬戸芸と地域活性化、地域づくりに焦点をあててアンケート調査を実施する。

論文の構成は、1で先行研究の整理と研究課題の設定を行い、2で瀬戸芸と豊島の概要を説明し、3でアンケート調査の結果を明らかにする。最後に、研究課題に沿って明らかになったことをまとめる。

1. 問題の所在

(1) 先行研究の整理

ここでは先行研究の整理をしたい。本研究との関連で、地域芸術祭の開催された地域の住民を対象に、定量的手法を使った研究についてみていく。その際、地域芸術祭の先駆的存在である「大地の芸術祭」と瀬戸芸に焦点をあてることになるが、実際にこの2つの芸術祭以外では大掛かりなアンケート調査に基づく研究はほぼない。

地域芸術祭について地域住民を対象にしたアンケート調査の先駆的研究は勝村ほか(2008)である。「大地の芸術祭」の舞台となった新潟県越後妻有地方の住民を対象として、芸術祭開催地域の住民に及ぼす社会的影響を中心にアートプロジェクトの価値を検討すべく、アンケート調査を実施した。その分析結果から、本研究との関連に限定すると、以下のことが明らかになった。①来場者によるインパクトよりも、ボランティアやアーティストと住民との関係性が地域に影響を与えている。②生活への影響は話題が増える程度であり、半数以上の住民が生活レベルで感じられるような具体的な変化が少なかった。③高齢者が新たな人的ネットワークを構築している。④個人的に協力した人は新しい知り合いができ、地域における好ましい変化をより感じている。

鷲見も越後妻有地方の住民を対象として複数回にわたりアンケート調査を実

施し、一連の研究行っている。鷺見（2013）は、「大地の芸術祭」とソーシャル・キャピタルとの関係性に注目し、芸術祭の地域活性化効果を検証することを目的として、「大地の芸術祭 2006」と「大地の芸術祭 2012」に関するアンケート調査分析を行った。その結果、以下のことを明らかにした。①芸術祭が今後も継続することに対して、多くの地域住民は肯定的に受け入れている。②地域住民の半数以上が芸術祭に協力的であり、地域に好ましい変化が起こったと回答した割合も高い。女性の活躍と地域内の活気が「増えた」と回答した割合も高い。③芸術祭が個人の活動や生活に与えた影響については、特に芸術祭が異世代や地域を超えた人々の交流を促進した可能性がある。④地域住民同士のつきあい・交流、信頼、社会参加、地域への愛着やまとまりなどが、調査対象地域には高水準で存在している。

さらに、鷺見（2014）では、ソーシャル・キャピタルについての分析を深め、以下のことを明らかにした。①「大地の芸術祭」の運営に協力した住民ほど、同世代や地域内の人々の交流が促進され、さらに異世代や地域を超えた人々との交流も促進された。②「大地の芸術祭」の活動の中心は60歳代の住民であり、高齢化が著しい中山間地域において、高齢者の活躍を促進した。③「大地の芸術祭」の最大の貢献として、橋渡型ソーシャル・キャピタルの蓄積につながる変化を地域住民にもたらした。④集落や地域住民の結束型ソーシャル・キャピタルが劣化していない。

次に、瀬戸芸についての先行研究をみる。室井（2012）、室井（2013）は、アートプロジェクトが地域社会の活性化に果たす役割の検証と評価をすべく、瀬戸芸の舞台となった4つの島の住民を対象にアンケート調査とインタビュー調査を行った。その結果、以下のことを明らかにした。①アートプロジェクトには地域の文化的自負の涵養や対外的な社会的つながりの創出という地域づくり効果が期待できる。②対外的な社会的交流の有無が、芸術祭の評価を大きく規定している。芸術祭の全体評価や次回の開催意向は、芸術祭で知り合った人の有無や芸術祭への関与の有無と密接な関連を有している。③住民評価に大きな影響を及ぼしたのは観光客の数ではなくアーティストやボランティアとの継

続的な関わりであった。④定住対策面での事業効果は限定的であった。芸術祭が島に社会文化的な刺激をもたらしたことは確かであるが、島の生活課題群全体の中で交流や観光の重要性は決して高いものではない。

原（2012）も前の室井論文の問題意識を共有し、豊島の一集落の住民を対象に聞取形式によるアンケート調査を行い、その結果、多くで室井論文と同様の結論を得るとともに、以下のことを明らかにした。①交流は島に活気や元気だけでなく、島民が改めて島の良さに気付く、誇りを取り戻すことにもつながった。②島民も芸術祭に積極的に関わりたいと考えている。

(2) 課題の設定

本研究の課題の設定を行う。まずは、上にみてきた先行研究の中でも、複数の先行研究が指摘する研究成果について、検証を行っていく必要がある。具体的には以下の通りである。

①(i)芸術祭に対して、多くの地域住民は肯定的に受け入れているか。

(ii)芸術祭の評価を規定する要因は何か。

②(i)芸術祭に関わりを持った人は、新しい知り合いができたり、交流が進められたか。

(ii)芸術祭への評価に影響しているか。

(iii)とくにアーティストやボランティアと関わりを持った人ではどうか。

また、定住対策面での事業効果は限定的だったとの指摘は室井（2013）だけであるが、重要な指摘であるため、本研究でも検証を行う。

③定住対策面での事業効果はどうか。

なお、原（2012）が述べる島民の誇りの回復、芸術祭への関与については、本研究では取り扱わない。これらは非常に重要なため、注意深い検証が必要であり、それには対面での聞取調査が調査方法としては適切であると考えられる。しかし、今回はコロナ禍での調査となったため、聞取調査を実施することを断念せざるを得なかった。今後の課題としたい。

次に、瀬戸芸開始後の10年間における豊島での変化についてである。この

間、過疎化、高齢化はさらに進んだ。だが、その一方で、若い移住者が増え、飲食施設や宿泊施設なども増加した。とくに移住者の増加は先行研究でもほとんど指摘がなく、新しい事象である。したがって、

④地域住民は移住者の増加をどう評価しているか。

についても、注目する。

以下では、上記の4つの課題について分析する。

2. 瀬戸内国際芸術祭と豊島

(1) 瀬戸内国際芸術祭

本論文の研究対象である瀬戸内国際芸術祭と豊島について概観する。⁽²⁾瀬戸芸は、「海の復権」をテーマに、直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島および高松港周辺を会場に2010年に初めて開催されたアートプロジェクトである。世界的にも著名な国内外のアーティストが現代美術の作品の製作・展示を行ったり、イベントを開催した。その後は3年ごとに開催されて2019年には4回目を迎えた。瀬戸芸は開催を経る毎に訪問客が増え、来場者数は第1回（2010年）94万人、第2回（2013年）107万人、第3回（2016年）104万人、第4回（2019年）118万人と増加した。また、この間に開催会場も増え、2019年では12の島（直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、沙弥島、本島、高見島、栗島、伊吹島）と2つの港（高松港、宇野港）周辺を会場に、春、夏、秋の3会期、計107日間開催した。

主催は各種行政機関や経済団体からなる瀬戸内国際芸術祭実行委員会であり、会長は香川県知事、総合プロデューサーは福武總一郎氏、総合ディレクターは北川フラム氏である。会長が県知事であることからわかるように、香川県と北川氏が主導している。これまで実績を重ね、現在ではアートによる地域振興の日本を代表する事例となった。また、このような地域芸術祭は地域活性化の方法として注目され、現在では全国各地で展開されている。

(2) 瀬戸芸については、瀬戸内国際芸術祭実行委員会による「瀬戸内国際芸術祭 総括報告」の各回版を参照。

(2) 豊島

豊島は小豆島と直島の間、岡山県玉野市のほぼ真東に位置する⁽³⁾（第1図参照）。面積は14.5 km²と瀬戸内海の島の中では中程度の大きさで、行政上は香川県小豆郡土庄町に属する一部離島である⁽⁴⁾。島は家浦（岡地区、浜地区、硯地区）、唐櫃（岡地区、浜地区）、甲生の3集落6地区からなる。集落は密集しており、集落周辺は海と山に覆われている。過疎化と高齢化は深刻化しており、1970年には約2,500人いた人口も、2000年で1,327人、瀬戸芸の始まった2010年で1,018人、2020年10月現在で770人と減少を続けており、高齢化率は現在51.7%にも及んでいる。島内には高校がなく、島から高校に通うには船を使って島外に出ることになる。

豊島はもともと農業・漁業と石材産業といった地場産業が中心の島であっ

第1図 豊島の位置



(3) 豊島についての記述は、水野・原（2020），pp. 2 - 4 を参照。現在の人口等のデータは最新のものに改訂している（2020 年 12 月 11 日現在）。

(4) 土庄町の役場は小豆島に置かれている。

た。また、豊島は水資源が豊富で、稲作栽培も行われている。この豊富な水資源と傾斜地を利用した棚田の美しさは有名で、米を自給した上で島外にも販出していた。他にも、豊島はその温暖な気候から果樹栽培に適しており、ミカンやオリーブ、イチゴ、レモンなどが栽培されている。また、1970年代後半から1990年にかけて産業廃棄物の不法投棄がなされた島としても有名である。この国内最大規模の産業廃棄物不法投棄事件により、「ゴミの島」として世間に知られてしまった豊島は、釣客、観光客などが激減するなどの風評被害も受けた。

2010年の瀬戸内国際芸術祭の開催により、豊島は「アートの島」として知られるようになった。豊島は第1回瀬戸芸から会場の1つとして、来場者数は第1回18万人、第2回13万人、第3回15万人、第4回14万人と推移し、現在では国内のみならず世界中から観光客が訪れている。島内の代表的な美術館としては豊島美術館や豊島横尾館、「心臓音のアーカイブ」等の常設展示・施設があり、「島キッチン」などのレストランもある。さらに、瀬戸芸以降、若い移住者が増え、正確な人数は把握できていないが、人口の1割弱は移住者と推定される。島内には飲食施設や宿泊施設が増え、また移住者が営む飲食施設も複数軒ある⁽⁵⁾。外国人も含めた観光客の増加と移住者の増加、店舗の増加は瀬戸芸以後の大きな変化といえる。

島への交通手段について、豊島には定期船が停まる港が家浦港と唐櫃港の2つある。高松港から家浦港までを結ぶ高速船が3～11月に1日3～6往復、12月～3月に3～4往復ある。3月～11月は高松港と唐櫃港を結ぶ高速船も土曜日・祝日に限り1往復運航されている。岡山県玉野市・宇野港からは、家浦港・唐櫃港経由で小豆島の土庄港へ向かうフェリーと高速船が運航されており、合わせて1日7往復ある。宇野港からは家浦港止まりの高速船・フェリーもそれぞれ1日1往復運航されており、土庄港からも唐櫃港経由で家浦港止まりの高速船が1日1往復運航されている。また、美術館を巡る目的が主である

(5) 水野・原(2020)を参照。

(6) 豊島への交通手段については、豊島観光ナビを参照(2020年12月11日現在)。

が、直島・宮浦港から家浦港経由の岡山県岡山市・犬島を結ぶ高速船が1日3往復運航されている。

豊島を調査対象地に選んだ理由については、第1回瀬戸芸では作品数が最も多く、島々の中で一番力を入れられた島であり、来場者数も18万人と直島(29万人)に次いで多く、芸術祭以前と比べて最も集客数が多くなった島だからである。⁽⁷⁾ 原(2012)ではそのために豊島を選んだのであり、単純な比較はできないが、本研究との比較が可能であると判断したからである。

3. アンケート分析

(1) アンケート調査

アンケート調査は豊島に全戸(419戸)に郵便で配付し、回答者に郵送してもらった。2020年8月初旬に各戸に調査票を2枚ずつ配付し、18歳以上の同居家族の方がいる場合はそのうちの2人に、同居家族がいない場合は本人のみに回答してもらう方法で、8月20日までを返送期限とした。その結果、104戸、154人から調査票を回収し、154票を分析対象とした(戸数では回収率24.8%、人数では20.0%)。

アンケート調査票における質問項目では、属性、瀬戸芸との関わり、瀬戸芸への評価、豊島での生活に関する評価を尋ねている。

分析にあたって、全体の他に、年齢階層別と瀬戸芸との関わりのありなし別でもそれぞれ比較している。年齢階層別では高齢層の60歳以上層と若年・中年層の60歳未満層とに分けた。高齢化の進む島しょ部において、芸術祭についての評価を比較するためである。また、瀬戸芸との関わりのありなしでは、後にみる第7表の瀬戸芸との関わりで、これまで何らかの関わりがあった層と今回も以前もなかった層とに分けた。これは「課題の設定」でも述べたように、芸術祭に関わりを持った人と持たなかった人との比較のためである。

(7) 第4回瀬戸芸(2019年)では、作品数は小豆島が最も多く、豊島は他の島と数では大きく変わらない。また、入場者数も直島(30.3万人)、小豆島(18.6万人)に次ぐ、3番目(14.3万人)であった。

(2) 属性

先ず、属性からみていく。

性別は全体では若干女性が多いものの、ほぼ同数である（第1表参照）。年齢階層別では、60歳未満層の女性比率が60歳以上層に比べてやや高い。また、瀬戸芸と関わりのありなしでは、男女比は大きな差はない。

第1表 性別

	全 体		60歳未満		60歳以上		瀬戸芸関わりあり		関わりなし	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
男性	70	45.5	18	40.9	51	46.8	42	47.2	26	46.4
女性	75	48.7	25	56.8	50	45.9	42	47.2	29	51.8
不明	9	5.8	1	2.3	8	7.3	5	5.6	1	1.8
合計	154	100.0	44	100.0	109	100.0	89	100.0	56	100.0

注：比率は全体は154人、60歳未満は44人、60歳以上は109人、瀬戸芸関わりありは89人、関わりなしは56人に占める割合。

年齢別は全体では70代が38.3%と最も多く、次いで60代18.8%、80代11.7%の順になっている（第2表参照）。この60代～80代で全体の68.8%と7割弱を占める。一方、60歳未満層は28.6%と3割弱を占めるに過ぎない。豊島全体の年齢別人口構成と比較すると、40代・50代、80代・90代の比率が低く、一方で70代の比率が高い。今回の調査では高齢者が比較的多く回答していることがわかる。瀬戸芸との関わりのありなしでは、あり層では60代までがなし層に比べて比率が高く、70代・80代ではなし層が高い。高齢になると芸術祭との関わりをもつのが難しくなると考えられる。ただし、70代では合計59人のうち30人(50.8%)があり層、80代では18人のうち7人(38.9%)⁽⁸⁾があり層であり、関わりのある人が少ないわけではない。

(8) 30代では13人のうち9人(69.2%)、40代では15人のうち10人(66.7%)、50代では10人のうち7人(70.0%)、60代では29人のうち18人(62.1%)があり層である。

第2表 年齢別

	全 体		瀬戸芸関わりあり		関わりなし		豊島人口	
	人	%	人	%	人	%	人	%
10代	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	0.6
20代	6	3.9	5	5.6	1	1.8	40	5.6
30代	13	8.4	9	10.1	4	7.1	51	7.1
40代	15	9.7	10	11.2	4	7.1	91	12.7
50代	10	6.5	7	7.9	3	5.4	77	10.7
60代	29	18.8	18	20.2	11	19.6	136	19.0
70代	59	38.3	30	33.7	23	41.1	160	22.3
80代	18	11.7	7	7.9	10	17.9	112	15.6
90代	3	1.9	2	2.2	0	0.0	46	6.4
不明	1	0.6	1	1.1	0	0.0	0	0.0
合計	154	100.0	89	100.0	56	100.0	717	100.0

注 1：比率は全体は154人、瀬戸芸関わりありは89人、関わりなしは56人に占める割合。

注 2：豊島人口は2020年10月1日現在の人口。アンケートは18歳以上を対象としたため、表中には18歳以上の人口を計上している。18歳未満は53人いるため、豊島全体では770人である。

職業別は全体では高齢化を反映して年金生活者が42.9%と最も高い。次いで専業主夫・主婦21.4%，民間企業・団体16.2%，農業11.7%の順となっている（第3表参照）。これを年齢階層別でみると、その特徴が鮮明になる。60歳以上層は年金生活者が59.6%と大部分を占め、次いで専業主夫・主婦が30.3%を占めるのに対して、60歳未満層では年金生活者も専業主夫・主婦も0で、民間企業・団体40.9%，宿泊業・飲食業20.5%，公務員・教員18.2%となっている。宿泊業・飲食業が多いのは瀬戸芸などで訪問した観光客を対象にしているからと考えられる。⁽⁹⁾瀬戸芸との関わりのありなしでは、宿泊業・飲食業がなし層（1.8%）に比べてあり層（15.7%）が高い。逆に年金生活者、専業主夫・主婦ではあり層（それぞれ36.0%，16.9%）に比べてなし層（48.2%，30.4%）が高い。

（9） 通常の職業分類とは異なり、観光（瀬戸芸）の影響をみるために「宿泊業・飲食業」を自営業から独立させて質問項目を設けた。

第3表 職業（複数回答可）

	全 体		60歳未満		60歳以上		瀬戸芸関わりあり		関わりなし	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
専業主夫・主婦	33	21.4	0	0.0	33	30.3	15	16.9	17	30.4
民間企業・団体	25	16.2	18	40.9	7	6.4	18	20.2	7	12.5
農業	18	11.7	7	15.9	11	10.1	13	14.6	5	8.9
漁業	10	6.5	1	2.3	8	7.3	7	7.9	2	3.6
宿泊業・飲食業	15	9.7	9	20.5	5	4.6	14	15.7	1	1.8
宿泊・飲食業以外の自営業	7	4.5	3	6.8	4	3.7	6	6.7	1	1.8
年金生活者	66	42.9	0	0.0	65	59.6	32	36.0	27	48.2
公務員・教員	9	5.8	8	18.2	1	0.9	3	3.4	6	10.7
学生	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	7	4.5	2	4.5	5	4.6	3	3.4	4	7.1

注：比率は全体は154人、60歳未満は44人、60歳以上は109人、瀬戸芸関わりありは89人、関わりなしは56人に占める割合。

同居人数は全体では2人世帯が48.1%と最も高く、次いで1人33.7%となっている（第4表参照）。同居世帯員は非常に少ない。年齢階層別では、60歳未満層では1人が38.9%と最も高く、次いで2人27.8%であるのに対して、60

第4表 同居人数

	全 体		60歳未満		60歳以上		瀬戸芸関わりあり		関わりなし	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
1人	35	33.7	14	38.9	20	26.3	26	29.5	8	14.3
2人	50	48.1	10	27.8	46	60.5	45	51.1	38	67.9
3人	9	8.7	4	11.1	7	9.2	7	8.0	7	12.5
4人	4	3.8	3	8.3	1	1.3	4	4.5	1	1.8
5人	3	2.9	3	8.3	1	1.3	4	4.5	0	0.0
6人	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7人	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8人	1	1.0	1	2.8	0	0.0	1	1.1	0	0.0
不明	2	1.9	1	2.8	1	1.3	1	1.1	2	3.6
計	104	100.0	36	100.0	76	100.0	88	100.0	56	100.0

注：同居人数は本人も含めた世帯人数。

歳以上層では2人が60.5%と大部分を占め、次いで1人26.3%となっていて、60歳未満層の一人暮らしの多さが目立っている。瀬戸芸との関わりのありなしでは、なし層で2人が67.9%と非常に高く、1人が14.3%と低いのに対して、あり層では1人29.5%、2人51.1%と全体の動向と大きく変わらない。

居住年数は全体では40～49年、50～59年、60～69年、70～79年の4階層が多く、合わせると51.9%と過半数になる（第5表参照）。その一方で、5年以内も14.9%を占めており、近年の移住者の増加が背景にある。また、10年未満までで19.5%、30年未満までで30.5%に対して、40年以上で55.2%、50年以上で40.3%となっている。

第5表 居住年

	全 体		60歳未満		60歳以上		瀬戸芸関わりあり		関わりなし	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
1年	9	5.8	9	20.5	0	0.0	5	5.6	5	8.9
2～5年	14	9.1	12	27.3	2	1.8	11	12.4	2	3.6
6～9年	7	4.5	6	13.6	1	0.9	6	6.7	1	1.8
10～19年	6	3.9	2	4.5	4	3.7	2	2.2	4	7.1
20～29年	11	7.1	5	11.4	6	5.5	9	10.1	2	3.6
30～39年	11	7.1	4	9.1	7	6.4	7	7.9	4	7.1
40～49年	23	14.9	4	9.1	19	17.4	13	14.6	9	16.1
50～59年	17	11.0	2	4.5	14	12.8	9	10.1	6	10.7
60～69年	18	11.7	0	0.0	18	16.5	13	14.6	5	8.9
70～79年	22	14.3	0	0.0	22	20.2	7	7.9	14	25.0
80～89年	2	1.3	0	0.0	2	1.8	0	0.0	1	1.8
90～99年	3	1.9	0	0.0	3	2.8	2	2.2	0	0.0
不 明	11	7.1	0	0.0	11	10.1	5	5.6	3	5.4
合 計	154	100.0	44	100.0	109	100.0	89	100.0	56	100.0

注：比率は全体は154人、60歳未満は44人、60歳以上は109人、瀬戸芸関わりありは89人、関わりなしは56人に占める割合。

年齢階層別では、60歳未満層では10年未満が多く61.4%を占める。移住者の多くが60歳未満であることがわかる。30年未満までにすると77.3%と大部分を占める。60歳以上層では10年未満が少なく2.7%、30年未満までも11.9%に対して、40年以上では71.6%、50年以上でも54.1%と過半を占める。居住年では年齢階層別でみた場合、顕著な差がある。豊島出身で長く豊島に住んでいる人が多い中、一部では若い移住者や結婚を機に豊島に住み続けている人もいることが想定される。瀬戸芸との関わりのありなしでは、あり層では10年未満が24.7%、30年未満まで37.1%、40年以上で49.4%、50年以上で34.8%と比較的に居住年の短い人が多い。一方、なし層では10年未満が14.3%、30年未満まで25.0%、40年以上で62.5%、50年以上で46.4%と居住年の長い人が多い。

豊島出身については、全体では「はい」が56.5%、「いいえ」が37.7%であり、出身者の方が多い（第6表参照）。これを年齢階層別でみると、60歳以上層では「はい」が67.9%、「いいえ」が25.7%と出身者が突出しているのに対して、60歳未満層では「はい」が29.5%、「いいえ」が65.9%と比率が逆転している。ここでも60歳未満層に移住者が多いことが確認できる。瀬戸芸との関わりのありなしでは、あり層（51.7%）に比べてなし層（60.7%）の方が豊島出身が多いが、顕著な差ではない。

第6表 豊島出身

	全 体		60歳未満		60歳以上		瀬戸芸関わりあり		関わりなし	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
は い	87	56.5	13	29.5	74	67.9	46	51.7	34	60.7
いいえ	58	37.7	29	65.9	28	25.7	37	41.6	21	37.5
不 明	9	5.8	2	4.5	7	6.4	6	6.7	1	1.8
合 計	154	100.0	44	100.0	109	100.0	89	100.0	56	100.0

注：比率は全体は154人、60歳未満は44人、60歳以上は109人、瀬戸芸関わりありは89人、関わりなしは56人に占める割合。

(3) 瀬戸芸との関わり

次に瀬戸芸との関わりについてみていく。瀬戸芸との関わりについては、全体では「今回も以前もなかった」が36.4%と最も高い（第7表参照）。次いで「今回も以前もあった」が34.4%で高く、ほぼ同じ比率である。また、以前または今回関わりがあった人の比率の合計は63.6%である。年齢階層別では差が顕著であり、60歳未満層では「今回も以前もあった」が52.3%で最も高く、以前または今回関わりがあった人の比率の合計は70.4%と高い。それに対して、60歳以上層では「今回も以前もなかった」が40.4%と最も高く、以前または今回関わりがあった人の比率の合計は53.3%とそれほど高くない。さらに、「以前はあったが今はない」が22.0%の高さであり、高齢化により、もともと関わっていない、または関わりがなくなった人が多いことが想定される。

第7表 瀬戸芸との関わり

	全 体		60歳未満		60歳以上	
	人	%	人	%	人	%
今回（2019年）初めてあった	10	6.5	6	13.6	4	3.7
今回も以前もあった	53	34.4	23	52.3	29	26.6
以前はあったが今はない	26	16.9	2	4.5	24	22.0
今回も以前もなかった	56	36.4	12	27.3	44	40.4
不 明	9	5.8	1	2.3	8	7.3
合 計	154	100.0	44	100.0	109	100.0

注：比率は全体は154人、60歳未満は44人、60歳以上は109人に占める割合。

瀬戸芸との関わりのあった人のみを対象に、その関わりの内容についてみると、「作品やイベントの見学」が44.9%と最も高く、次いで「仕事（飲食店・物販・その他）」が38.2%と高い。「作品づくりの協力（アーティスト・こえび隊・その他）」という関わりの深い内容についても29.2%と比較的高い（第8表参照）。年齢階層別では、60歳未満層は60歳以上層に比べて、「土地・家屋・資材の貸与・提供」以外のすべてで比率が高い。特に「作品やイベントの見学」における比率の差は顕著である。

第8表 瀬戸芸との関わりの内容（関わりのあった人のみ：複数回答可）

	全 体		60歳未満		60歳以上	
	人	%	人	%	人	%
1 仕事（飲食店・物販・その他）	34	38.2	13	41.9	20	35.1
2 作品づくりの協力（アーティスト・こえび隊・その他）	26	29.2	10	32.3	16	28.1
3 土地・家屋・資材の貸与・提供	6	6.7	0	0.0	6	10.5
4 訪問客への作品案内・作品管理	17	19.1	8	25.8	9	15.8
5 作品やイベントの見学	40	44.9	18	58.1	22	38.6
6 その他	8	9.0	1	3.2	7	12.3

注：比率は全体は89人、60歳未満は31人、60歳以上は57人に占める割合。

瀬戸芸関係での交流の有無については、全体では「交流があった」の比率は日本人訪問客（54.5%）、外国人訪問客（42.9%）、こえび隊（40.3%）、アーティスト（35.7%）の順で高い。一番低いアーティストでも35.7%の高さであり、交流のあった人は訪問客に限らず、瀬戸芸関係者とも多く交流している（第9表参照）。年齢階層別では、60歳未満層は外国人訪問客、日本人訪問客の比率がそれぞれ68.2%、65.9%と高いのに対して、60歳以上層では32.1%、49.5%と5割弱である。特に外国人訪問客の比率は低い。高齢者の訪問客との交流は比較的少ない。

第9表 交流の有無

	全 体		60歳未満		60歳以上	
	人	%	人	%	人	%
アーティスト	55	35.7	18	40.9	36	33.0
こえび隊	62	40.3	20	45.5	41	37.6
日本人訪問客	84	54.5	29	65.9	54	49.5
外国人訪問客	66	42.9	30	68.2	35	32.1

注：比率は全体は154人、60歳未満は44人、60歳以上は109人に占める割合。

(4) 瀬戸芸による変化

①これまでの瀬戸芸が豊島やあなた自身にもたらした変化（5段階評価）

次に瀬戸芸による変化についてみていく。これまでの瀬戸芸が豊島やあなた自身にもたらした変化について、5段階評価で尋ねたのが第10表である。⁽¹⁰⁾これによると、全体では20項目のうち最も評価が高いのは「島内に若い移住者が増えた」(4.06)で、次いで「瀬戸内海と島々の景色の美しさが訪問客に伝わった」(3.94), 「島の知名度が上がった」(3.94), 「島の自然の良さが訪問客に伝わった」(3.83), 「島に活気が出た」(3.77)の順で高い。移住者の増加が最も評価が高い。他には訪問客の増加による島の知名度や活気が出たことの評価が高い。また、海や島の景色や自然の良さも評価が高い。その一方で、「島外に知人・友人が増えた」(2.52), 「島内の景観・風景が悪くなった」(2.68), 「自分の価値観や考え方が変わった」(2.75)など、20項目中12項目が平均3.00未満であり、高くない。友人・知人の増加, 会話の増加, 豊島の歴史や文化の伝達, 価値観の変化, 仕事の増加については評価が低い。⁽¹¹⁾

以上のことから、「課題の設定」の④「地域住民は移住者の増加をどう評価しているか」については、移住者の増加が瀬戸芸のもたらした変化として最も高く評価されていることがわかる。

年齢階層別では、60歳未満層は上位5つについては順位に変動があるものの内容は全体と変わらない。やはり「島内に若い移住者が増えた」が最も高い。また、下位については全体の下位5つのうち3つは重なっている。ただし、平均3.00未満なのは20項目のうち7項目である。60歳以上層は上位5つについて順位、内容とも全体と変わらない。60歳以上層の全体に占める比率が70%

(10) 質問項目の作成にあたっては、勝村ほか(2008)、鷺見(2013)、原(2012)の同様の質問項目を参考にした。

(11) なお、瀬戸芸が初めて開催された2010年での豊島の一集落を対象としたアンケート調査と比較すると、「地域内での女性の活躍の機会が増えた」(2010年調査3.99→本研究3.18), 「地域に活気が出た」(3.89→3.77), 「島で仕事が増えた」(3.29→2.84), 「地域内での高齢者の活躍の機会が増えた」(3.10→2.92), 「生活環境が悪くなった」(1.99→2.91), 「景観・風景が悪くなった」(1.55→2.68)であった(原(2012), pp. 84-86を参照)。単純な比較はできないが、本研究のほうが評価が低めに出ている。

第10表 これまでの瀬戸内国際芸術祭が豊島やあなた自身にもたらした変化（5段階評価）

	全体	60歳未満	60歳以上	t検定	瀬戸芸 関わり あり	関わり なし	t検定
④ 島内に若い移住者が増えた	4.06	4.09	4.06		4.16	3.92	
⑮ 瀬戸内海と島々の景色の美しさが 訪問客に伝わった	3.94	3.86	3.98		4.17	3.74	**
⑪ 島の知名度が上がった	3.94	4.09	3.87		4.09	3.66	*
⑭ 島の自然の良さが訪問客に伝わった	3.83	3.77	3.86		4.05	3.44	**
① 島に活気が出た	3.77	4.00	3.68		4.10	3.19	***
⑩ 島内に経済効果をもたらされた	3.32	3.55	3.23		3.45	3.06	
⑤ 外部から島に人が入ってくるこ との抵抗感がなくなった	3.31	3.16	3.40		3.58	2.92	**
② 島内での女性の活躍の機会が増えた	3.18	3.30	3.13		3.38	2.88	*
⑳ 自分自身も島の魅力を再発見できた	2.99	3.30	2.86	*	3.38	2.43	***
⑰ 島での暮らしに誇りが持てるよ うになった	2.93	2.86	2.96		3.19	2.54	***
③ 島内での高齢者（65歳以上）の活 躍の機会が増えた	2.92	3.02	2.87		3.12	2.53	**
⑱ 島内の生活環境が悪くなった	2.91	3.20	2.78	*	2.86	3.00	
⑫ 島の歴史や文化が訪問客に伝わった	2.88	2.73	2.95		3.00	2.66	
⑥ 島内の住民同士の会話が多了な った	2.87	2.77	2.91		3.09	2.49	***
⑨ 島内での仕事が増えた	2.84	3.20	2.67	*	3.12	2.44	**
⑦ 島内に知人・友人が増えた	2.83	3.05	2.73		3.16	2.28	***
⑬ 島の歴史や文化が豊島住民に伝 わった	2.83	2.68	2.89		3.00	2.51	*
⑯ 自分の価値観や考え方が変わった	2.75	2.67	2.78		2.93	2.49	*
⑰ 島内の景観・風景が悪くなった	2.68	2.86	2.58		2.56	2.83	
⑧ 島外に知人・友人が増えた	2.52	2.57	2.51		2.77	2.11	**

注1：5段階評価とは、1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：どちらともいえない、4：まあそう思う、5：そう思う、のこと。

注2：数字は質問項目の順番であり、全体平均の高い降順に並べ替えている。

注3：***は0.1%水準、**は1%水準、*は5%水準で有意。

程度なので、全体と重なる部分が多い。下位については全体の下位5つのうち3つは重なっている。平均3.00未満なのは20項目のうち12項目であり、順位の変動はあるが内容は全体と同じである。また、60歳未満層と60歳以上層で差があった項目は「島内での仕事が増えた」(差0.54), 「自分自身も島の魅力を再発見できた」(差0.43), 「島内の生活環境が悪くなった」(差0.43)である。仕事の増加や島の魅力発見など積極的な項目の評価が高い一方で、生活環境の悪化という消極的な面での評価も60歳未満層の方が高い。

瀬戸芸との関わりのありなしでは、あり層は上位5つについては順位に変動があるものの内容は全体と変わらない。下位については全体の下位5つのうち4つは重なっている。ただし、平均3.00未満なのは20項目のうち4項目と非常に少なく、全体的に平均は高めである。なし層は上位5つについて順位、内容とも全体と変わらない。下位については全体の下位5つのうち3つは重なっている。平均3.00未満なのは20項目のうち13項目と多い。あり層となし層で差があった項目は多く、その差が5%水準以上で有意であったものは15項目と大部分を占める。とくに「自分自身も島の魅力を再発見できた」(差0.95), 「島に活気が出た」(差0.91), 「島内に知人・友人が増えた」(差0.88)は差が大きい。

「課題の設定」の②(i)「芸術祭に関わりを持った人は、新しい知合いができたり、交流が促進されたか」については、これまでの先行研究でも明らかになっているように、瀬戸芸との関わりは、瀬戸芸が豊島やあなた自身にもたらした変化について、関わりのなかった人と比べて積極的な評価を与えることがわかる。ただし、「島内に知人・友人が増えた」, 「島外に知人・友人が増えた」の新しい知合いができたかに関わる質問項目の平均は、あり層でそれぞれ3.16, 2.77であり、島外にいたっては平均3.00未満と決して高いものではない。また、②(iii)「とくにアーティストやボランティアと関わりを持った人ではどうか」については、あり層89人のうち、アーティストまたはこえび隊と交流のあった人は79人(88.8%)と大部分であり、あり層と同様のことがいえる。

②これまでの瀬戸芸が豊島やあなた自身にもたらした変化（因子分析）

次に因子分析を行い、因子をみていく。第10表の20項目で因子分析を行ったところ（主因子法、プロマックス回転。因子数の決定は固有値1以上を基準）、4つの因子が抽出された。因子負荷量がいずれの因子にも0.4未満であった「⑤外部から島に人が入ってくることの抵抗感がなくなった」を除外し、再度因子分析を行った。その結果、4因子が抽出された。第1因子、第2因子、第3因子、第4因子のクロンバック α 係数はそれぞれ0.894、0.881、0.852、0.797であり、十分な信頼性を確認できた。

第11表 因子分析（瀬戸芸による変化）

	第1因子 「交流」 因子	第2因子 「活性化」 因子	第3因子 「島の魅力」 因子	第4因子 「環境」 因子
⑧島外に知人・友人が増えた	.856	.039	-.083	-.146
⑥島内の住民同士の会話がなくなった	.812	-.014	-.077	.120
⑦島内に知人・友人が増えた	.792	.032	.034	-.093
⑬島の歴史や文化が豊島住民に伝わった	.668	-.046	.105	.237
⑫島の歴史や文化が訪問客に伝わった	.640	.011	.034	.214
⑨島内での仕事が増えた	.532	.171	.067	-.083
①島に活気が出た	-.216	.862	.097	.082
④島内に若い移住者が増えた	.124	.757	-.202	-.060
⑪島の知名度が上がった	-.026	.618	.234	-.025
③島内での高齢者の活躍の機会が増えた	.324	.605	-.187	.038
⑩島内に経済効果がもたらされた	.271	.559	-.021	.078
②島内での女性の活躍の機会が増えた	.308	.510	.104	-.093
⑮瀬戸内海と島々の景色の美しさが訪問客に伝わった	-.091	-.059	.946	-.064
⑭島の自然の良さが訪問客に伝わった	-.174	.322	.564	.200
⑳自分自身も島の魅力を再発見できた	.353	.077	.531	-.139
⑯自分の価値観や考え方が変わった	.316	-.249	.530	.110
⑰島での暮らしに誇りが持てるようになった	.367	.121	.414	-.072
⑱島内の生活環境が悪くなった	.001	.033	.064	-.898
⑰島内の景観・風景が悪くなった	.026	-.066	-.028	-.715
クロンバック α 係数	.894	.881	.852	.797

注：主因子法、プロマックス回転

第 12 表 因子相関行列（瀬戸芸による変化）

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子
第 1 因子	1. 000	. 673	. 645	. 454
第 2 因子	. 673	1. 000	. 661	. 406
第 3 因子	. 645	. 661	1. 000	. 482
第 4 因子	. 454	. 406	. 482	1. 000

第 1 因子は「⑧島外に知人・友人が増えた」, 「⑥島内の住民同士の会話が多くなった」, 「⑦島内に知人・友人が増えた」などから「交流」因子とした。第 2 因子は「①島に活気が出た」, 「④島内に若い移住者が増えた」, 「⑪島の知名度が上がった」などから「活性化」因子とした。第 3 因子は「⑮瀬戸内海と島々の景色の美しさが訪問客に伝わった」, 「⑭島の自然の良さが訪問客に伝わった」, 「⑳自分自身も島の魅力を再発見できた」などから「島の魅力」因子とした。第 4 因子は「⑱島内の生活環境が悪くなった」, 「⑰島内の景観・風景が悪くなった」から「環境」因子とした（第 11 表・第 12 表参照）。

③瀬戸芸の満足度等（5 段階評価）

第 13 表は「これまでの瀬戸芸に満足しているか」（瀬戸芸の満足度）, 「これまでの瀬戸芸が豊島やあなた自身にもたらした好ましい変化はあったと思うか」（瀬戸芸による好ましい変化）, 「今後も瀬戸芸を続けていってほしいと思うか」（瀬戸芸の継続意向）について、それぞれ 5 段階評価で尋ねたものである。これによると、全体ではいずれも平均は 3.00 を超えており、瀬戸芸の継続意向、瀬戸芸の満足度、瀬戸芸による好ましい変化の順で高い⁽¹²⁾。年齢階層別では大きな違いはない。瀬戸芸との関わりのありなしでは、あり層の評価は平均がいずれも 3.00 未満のなし層に比べて顕著に高い。

「課題の設定」の課題②(ii)「芸術祭への評価に影響しているか」については、

(12) 2010 年の豊島でのアンケート調査と比較すると、瀬戸芸の満足度（2010 年調査 3.95 →本研究 3.25）、瀬戸芸の継続意向（4.17→3.41）であった（原（2012）、pp.86-87、pp.92-93 を参照）。やはり本研究のほうが評価が低めに出ている。

第 13 表 瀬戸芸の満足度・継続意向等（5段階評価）

	全体	60歳未満	60歳以上	t 検定	瀬戸芸 関わり あり	関わり なし	t 検定
瀬戸芸の満足度	3. 25	3. 18	3. 29		3. 48	2. 72	***
瀬戸芸による好ましい変化	3. 10	3. 20	3. 06		3. 40	2. 60	***
瀬戸芸の継続意向	3. 41	3. 43	3. 40		3. 64	2. 89	**

注：*** は 0.1%水準，** は 1%水準で有意。

瀬戸芸との関わりが、継続意向、満足度、好ましい変化のいずれについても積極的な評価を与えていることが確認できる。また、②(iii)「とくにアーティストやボランティアと関わりを持った人ではどうか」についても、先述したように、アーティストまたはこえび隊と交流のあった人とあり層はほぼ重なるので、あり層と同様のことがいえる。

また、第 14 表～第 16 表で各質問への 5 段階評価の回答比率をみると、瀬戸芸の満足度では全体で「まあそう思う」、「そう思う」の合計が 45.5%と高いものの、一方で「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計が 23.4%と不満層も 2 割を超える（第 14 表参照）。この比率は年齢階層別でみても大きな

第 14 表 これまでの瀬戸芸に満足しているか（5 段階評価）

	全 体		60 歳未満		60 歳以上		瀬戸芸 関わりあり		関わり なし	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
そう思わない	16	10.4	4	9.1	12	11.0	4	4.5	12	21.4
あまりそう思わない	20	13.0	6	13.6	14	12.8	12	13.5	8	14.3
どちらともいえない	37	24.0	15	34.1	21	19.3	21	23.6	15	26.8
まあそう思う	52	33.8	16	36.4	36	33.0	37	41.6	12	21.4
そう思う	18	11.7	3	6.8	15	13.8	12	13.5	3	5.4
不 明	11	7.1	0	0.0	11	10.1	3	3.4	6	10.7
合 計	154	100.0	44	100.0	109	100.0	89	100.0	56	100.0

注：比率は全体は 154 人、60 歳未満は 44 人、60 歳以上は 109 人、瀬戸芸関わりありは 89 人、関わりなしは 56 人に占める割合。

違いはない。瀬戸芸との関わりのありなしでは、あり層で「まあそう思う」、「そう思う」の合計が55.1%、「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計が18.0%であるのに対して、なし層では「まあそう思う」、「そう思う」の合計が26.8%、「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計が35.7%である。あり層は満足層が5割を超えている一方で、なし層では不満層が満足層よりも多い。あり層となし層の差は顕著である。

次に、瀬戸芸による好ましい変化では全体で「まあそう思う」、「そう思う」の合計が41.6%に対して、「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計が29.9%と3割近い人が好ましい変化に対しては否定的である（第15表参照）。年齢階層別では「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計では60歳未満層も60歳以上層も大きな違いはないが、「まあそう思う」、「そう思う」の合計では60歳未満層が54.6%と高いのに対して、60歳以上層では36.7%と低い。若い層のほうが瀬戸芸による好ましい変化に対して肯定的にとらえている人が多い。瀬戸芸との関わりのありなしでは、あり層で「まあそう思う」、「そう思う」の合計が53.9%、「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計が20.2%であるのに対して、なし層では「まあそう思う」、「そう思う」の合計が

第15表 これまでの瀬戸芸が豊島やあなた自身にもたらした好ましい変化はあったと思うか（5段階評価）

	全 体		60歳未満		60歳以上		瀬戸芸 関わりあり		関わり なし	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
そう思わない	20	13.0	4	9.1	16	14.7	5	5.6	12	21.4
あまりそう思わない	26	16.9	8	18.2	17	15.6	13	14.6	13	23.2
どちらともいえない	35	22.7	8	18.2	27	24.8	18	20.2	16	28.6
まあそう思う	48	31.2	23	52.3	25	22.9	39	43.8	8	14.3
そう思う	16	10.4	1	2.3	15	13.8	9	10.1	4	7.1
不 明	9	5.8	0	0.0	9	8.3	5	5.6	3	5.4
合 計	154	100.0	44	100.0	109	100.0	89	100.0	56	100.0

注：比率は全体は154人、60歳未満は44人、60歳以上は109人、瀬戸芸関わりありは89人、関わりなしは56人に占める割合。

21.4%、「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計が44.6%である。あり層は肯定派が5割を超えている一方で、なし層では否定派が肯定派より倍以上も多い。ここでも、あり層となし層の差は顕著である。

さらに、瀬戸芸の継続意向では全体で「まあそう思う」、「そう思う」の合計が49.4%と5割近いのに対して、「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計が23.3%と継続意向に否定的な人が2割以上いる（第16表参照）。年齢階層別では大きな違いはない。瀬戸芸との関わりのありなしでは、あり層で「まあそう思う」、「そう思う」の合計が55.1%、「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計が16.8%であるのに対して、なし層では「まあそう思う」、「そう思う」の合計が35.7%、「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計が37.5%である。あり層は継続肯定派が5割を超えている一方で、なし層では継続否定派と肯定派がほぼ同じである。やはり、あり層となし層の差は顕著である。

第16表 今後も瀬戸芸を続けていってほしいと思うか（5段階評価）

	全 体		60歳未満		60歳以上		瀬戸芸 関わりあり		関わり なし	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
そう思わない	23	14.9	7	15.9	16	14.7	9	10.1	14	25.0
あまりそう思わない	13	8.4	3	6.8	10	9.2	6	6.7	7	12.5
どちらともいえない	33	21.4	8	18.2	24	22.0	21	23.6	12	21.4
まあそう思う	34	22.1	16	36.4	18	16.5	20	22.5	11	19.6
そう思う	42	27.3	10	22.7	32	29.4	29	32.6	9	16.1
不 明	9	5.8	0	0.0	9	8.3	4	4.5	3	5.4
合 計	154	100.0	44	100.0	109	100.0	89	100.0	56	100.0

注：比率は全体は154人、60歳未満は44人、60歳以上は109人、瀬戸芸関わりありは89人、関わりなしは56人に占める割合。

以上のことから、瀬戸芸の満足度、瀬戸芸による好ましい変化、瀬戸芸の継続意向とも肯定的な意見が多くを占めることが明らかになった。「課題の設定」の課題①(i)「芸術祭に対して、多くの地域住民は肯定的に受け入れているか」

については、41%～49%と半分以下ではあるが、概ねそういえる。ただし、否定的な人も23%～29%と無視できないほど存在していることがわかる。

また、年齢階層別では「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計では大きな相違がないが、「まあそう思う」、「そう思う」の合計では、瀬戸芸による好ましい変化において60歳未満層のほうが比率が高く、肯定的にとらえている人が多いことがわかる。

瀬戸芸との関わりのありなしでは、あり層となし層の差は顕著で、あり層のほうがいずれの項目についても顕著になし層よりも肯定派が多く、否定派が少ない。なし層はいずれの項目についても肯定派よりも否定派が多い。課題②(ii)「芸術祭への評価に影響しているか」については、ここでもその影響を確認できる。

さらに、先の瀬戸芸の継続意向を尋ねる質問では、自由記述式で5段階評価での評価理由も尋ねた。記述内容により分類したものが第17表・第18表である。まず、積極的な意見からみる。第17表によると、「島の活性化・活気が出た」が21人と最も多い。これは「経済効果・仕事が増えた」(5人)、「移住者が増えた」(5人)も合わせて、島にとってのプラス面の評価である。移住者の増加は瀬戸芸継続の理由としてもあげられている。また、「交流できた」(6

第17表 瀬戸芸継続意向についての積極的な意見（自由記述）

	人	%
島の活性化・活気が出た	21	41.2
交流できた	6	11.8
経済効果・仕事が増えた	5	9.8
元気をもらえた	5	9.8
移住者が増えた	5	9.8
若者の来島のきっかけとなった	3	5.9
船便の維持	3	5.9
その他	3	5.9
合 計	51	100.0

注：比率は記述された意見全体に占める割合。

人),「元気をもらえた」(5人)は住民にとってのプラス面の評価である。積極的な意見としては、豊島と住民自身のプラス面の評価が主である。

次に、消極的な意見をみる。第18表によると、「交通マナーが悪い」(13人),「ゴミ問題(ポイ捨てなど)」(8人),「騒々しい・生活環境悪化」(8人),「船に乗れない・混雑」(6人),「観光客のマナーが悪い」(5人)といった観光地化したことによる問題点の指摘が多い。また,「島の一部の人の利益にしかない」(5人),「住民主体ではない」(3人)といった瀬戸芸のあり方に対する問題点の指摘もある。これらのことが瀬戸芸の継続意向を評価する理由となっていることがわかる。

第18表 瀬戸芸継続意向についての消極的な意見(自由記述)

	人	%
交通マナーが悪い	13	21.3
ゴミ問題(ポイ捨てなど)	8	13.1
騒々しい・生活環境悪化	8	13.1
コロナが心配	8	13.1
船に乗れない・混雑	6	9.8
観光客のマナーが悪い	5	8.2
島の一部の人の利益にしかない	5	8.2
住民主体ではない	3	4.9
その他	5	8.2
合 計	61	100.0

注：比率は記述された意見全体に占める割合。

④瀬戸芸の満足度等(因子分析)

次に,「これまでの瀬戸芸に満足しているか」(瀬戸芸の満足度),「これまでの瀬戸芸が豊島やあなた自身にもたらした好ましい変化はあったと思うか」(瀬戸芸による好ましい変化),「今後も瀬戸芸を続けていってほしいと思うか」(瀬戸芸の継続意向)について,因子分析を行ったところ(主因子法,プロマックス回転。因子数の決定は固有値1以上を基準),1つの因子が抽出された。

第 19 表 因子分析（満足度・好ましい変化・継続意向）

	第 1 因子 「満足度」 因子	因子抽出後 共通性
継続	.896	.803
満足度	.866	.750
好ましい変化	.829	.687
因子寄与率 (%)	74.650	
クロンバック α 係数	.896	

注：主因子法

因子のクロンバック α 係数は 0.896 であり，十分な信頼性を確認できた。「満足・継続」因子とした（第 19 表参照）。

⑤瀬戸芸の満足度等（重回帰分析）

「課題の設定」の課題①(ii)「芸術祭の評価を規定する要因は何か」を明らかにすべく，瀬戸芸の満足度や好ましい変化，継続意向を規定する要因について重回帰分析を行った。第 11 表でみたそれぞれの因子，すなわち「交流」因子，「活性化」因子，「島の魅力」因子，「環境」因子を説明変数，「満足・継続」因子を被説明変数として，それぞれの因子得点を用いて線形の重回帰分析を行った（第 20 表参照）。分析の結果，「満足・継続」因子に影響を与えているのは

第 20 表 「満足・継続」因子を被説明変数とする重回帰分析

	標準化係数	t 値	t 検定
(定数)	—	.000	
「交流」因子	.203	2.315	*
「活性化」因子	.483	5.392	***
「島の魅力」因子	.085	.948	
「環境」因子	.168	2.553	*
自由度調整済み決定係数 $R^2 = .654$			

注：*** は 0.1%水準，* は 5%水準で有意。

「交流」, 「活性化」, 「環境」の3因子であり, 中でも「活性化」因子が最も効いている。

参考までに, 「今後も瀬戸芸を続けていってほしいと思うか」(瀬戸芸の継続意向) のみも説明変数として, それぞれの因子得点を用いて線形の重回帰分析を行った(第21表参照)。分析の結果, 決定係数は下がったが, 「満足・継続」因子に影響を与えているのは「活性化」, 「環境」の2因子であり, ここでも「活性化」因子が最も効いている。

以上のことから, 課題①(ii)「芸術祭の評価を規定する要因は何か」については, 「満足・継続」因子に影響を与えているのは「交流」, 「活性化」, 「環境」の3因子であり, 中でも「活性化」因子が最も効いていることがわかる。

第21表 芸術祭の継続意向を被説明変数とする重回帰分析

	標準化係数	t 値	t 検定
(定数)	—	40.537	
「交流」因子	.075	.760	
「活性化」因子	.503	4.990	***
「島の魅力」因子	.046	.456	
「環境」因子	.257	3.467	**
自由度調整済み決定係数 $R^2 = .561$			

注: *** は 0.1%水準, ** は 1%水準で有意。

(5) 豊島での生活

①豊島での生活 (5段階評価)

次に「課題の設定」の課題③「定住対策面での事業効果」にも密接に関わる豊島での生活についてみていく。第22表は, 香川県や土庄町役場による豊島での生活に関する以下の取組について, どれくらい満足しているかを5段階評価⁽¹³⁾で尋ねたものである。これによると, 全体では平均3.00以上であったのは

(13) 質問項目の作成にあたっては, 室井(2013)の同様の質問項目を参考にした。

第 22 表 豊島での生活に関する取組の満足度（5 段階評価）

	全体	60歳未満	60歳以上	t 検定	瀬戸芸 関わり あり	関わり なし	t 検定
⑮ 芸術祭の継続的な開催	3.17	3.07	3.21		3.18	3.13	
⑦ 相互扶助の強化	3.00	3.05	2.99		3.01	2.98	
⑭ 観光業の振興	2.96	2.79	3.05		2.91	3.04	
③ 子育て・教育環境の充実	2.88	2.74	2.97		2.90	2.75	
⑫ 伝統文化の継承	2.84	2.51	3.00	**	2.83	2.89	
④ 自然環境の保全・再生	2.84	2.73	2.90		2.84	2.70	
⑥ 治安・防災対策の充実	2.82	2.68	2.89		2.90	2.68	
⑬ 移住対策の充実	2.78	2.28	3.02	***	2.65	2.95	
⑧ 漁業の振興	2.63	2.67	2.61		2.68	2.59	
⑨ 公共事業の充実	2.57	2.47	2.63		2.66	2.46	
⑪ 環境事業の推進	2.56	2.53	2.59		2.55	2.59	
⑤ 農業の振興	2.54	2.50	2.56		2.57	2.43	
⑯ 新型コロナウイルス対策の充実	2.46	2.27	2.56		2.49	2.34	
⑩ 島内交通の改善	2.44	2.43	2.44		2.42	2.47	
② 海上交通の改善	2.43	2.14	2.58	*	2.41	2.34	
① 医療・福祉の充実	2.19	1.88	2.34	*	2.12	2.17	

注 1：5 段階評価とは、1：満足していない、2：あまり満足していない、3：どちらともいえない、4：まあ満足している、5：満足している、のこと。

注 2：数字は質問項目の順番であり、全体平均の高い降順に並べ替えている。

注 3：*** は 0.1%水準、** は 1%水準、* は 5%水準で有意。

「芸術祭の継続的な開催」(3.17)と「相互扶助の強化」(3.00)のみで 16 項目中 14 項目は 3.00 未満である。3.00 以上の 2 項目も 3.17 と 3.00 で低い値であり、豊島での生活に関する取組において不満が多いことがわかる。平均の低いところでは「医療・福祉の充実」(2.19)、「海上交通の改善」(2.43)、「島内交通の改善」(2.44)、「新型コロナウイルス対策の充実」(2.46)の医療・福祉、公共交通に関する取組が平均 2.50 を下回り、かなり低い。

年齢階層別では、60 歳未満層でも平均 3.00 以上だったのは「芸術祭の継続的な開催」(3.07)と「相互扶助の強化」(3.05)の 2 項目のみであり、他は 3.00 未満である。平均の低い項目も全体と変わらないが、「医療・福祉の充実」

が1.88と唯一の1点台である。また、「移住対策の充実」についても2.28で低い。移住者も多いこの年齢層では医療・福祉、公共交通に加えて移住対策にも不満が多いことがわかる。一方の60歳以上層では、平均3.00以上だったのは「芸術祭の継続的な開催」(3.21)、「観光業の振興」(3.05)、「移住対策の充実」(3.02)、「伝統文化の継承」(3.00)の4項目であり、観光振興に対する満足度が高い。平均の低い項目は全体と大きく変わらない。また、60歳未満層と60歳以上層とで顕著な差があるのは「移住対策の充実」(差0.74)である。若い人たちにとって移住対策は不満であるが、60歳以上層ではそこまで不満が大きいわけではない。「伝統文化の継承」(差0.49)、「海上交通の改善」(差0.44)、「医療・福祉の充実」(差0.46)についても差があり、いずれも60歳未満層のほうが満足度が低い。

瀬戸芸との関わりのありなしでは、あり層で平均3.00以上だったのは「芸術祭の継続的な開催」(3.18)と「相互扶助の強化」(3.01)の2項目のみであり、他は3.00未満である。平均の低い項目は全体と変わらない。なし層では平均3.00以上だったのは「芸術祭の継続的な開催」(3.13)と「観光業の振興」(3.04)の2項目のみであり、他は3.00未満である。平均の低い項目は全体と大きく変わらない。また、あり層となし層とで顕著な差があるものはない。

第23表は、今後も豊島で生活していく上でどれくらい重要だと思うかについて、5段階評価で尋ねたものである。これによると、全体では全16項目すべてが平均3.00を超えており、住民にとってどの項目も重要度が高いことがわかる。とくに平均4.50を超えた「医療・福祉の充実」(4.63)、「海上交通の改善」(4.52)、「新型コロナウイルス対策の充実」(4.52)は非常に高い。これらは上記の満足度では下位にあったもので、重要であるにも関わらず、満足度は低い。行政によるこれらの取組に対する改善が求められる。一方、比較的评价の低いのは「芸術祭の継続的な開催」(3.48)、「観光業の振興」(3.56)、「移住対策の充実」(3.70)、「漁業の振興」(3.70)である。「芸術祭の継続的な開催」、「観光業の振興」は重要度は低いものの満足度は高いという結果になっている。

第23表 豊島での生活に関する取組の重要度（5段階評価）

	全体	60歳未満	60歳以上	t検定	瀬戸芸 関わり あり	関わり なし	t検定
① 医療・福祉の充実	4.63	4.64	4.63		4.60	4.70	
② 海上交通の改善	4.52	4.66	4.45		4.56	4.55	
⑯ 新型コロナウイルス対策の充実	4.52	4.45	4.54		4.45	4.72	*
⑥ 治安・防災対策の充実	4.40	4.50	4.35		4.37	4.53	
⑩ 島内交通の改善	4.24	4.20	4.26		4.19	4.35	
④ 自然環境の保全・再生	4.21	4.23	4.20		4.18	4.30	
③ 子育て・教育環境の充実	4.20	4.27	4.15		4.23	4.16	
⑪ 環境事業の推進	4.05	4.05	4.04		4.07	4.04	
⑤ 農業の振興	3.98	4.11	3.91		4.00	3.94	
⑨ 公共事業の充実	3.96	3.77	4.06		3.89	4.06	
⑦ 相互扶助の強化	3.91	3.84	3.95		3.85	4.00	
⑫ 伝統文化の継承	3.79	3.86	3.77		3.92	3.63	
⑧ 漁業の振興	3.70	3.70	3.71		3.68	3.69	
⑬ 移住対策の充実	3.70	4.02	3.55	**	3.86	3.49	*
⑭ 観光業の振興	3.56	3.77	3.47		3.67	3.40	
⑮ 芸術祭の継続的な開催	3.48	3.52	3.45		3.65	3.17	*

注1：5段階評価とは、1：重要でない、2：あまり重要でない、3：どちらともいえない、4：まあ重要である、5：重要である、のこと。

注2：数字は質問項目の順番であり、全体平均の高い降順に並べ替えている。

注3：**は1%水準、*は5%水準で有意。

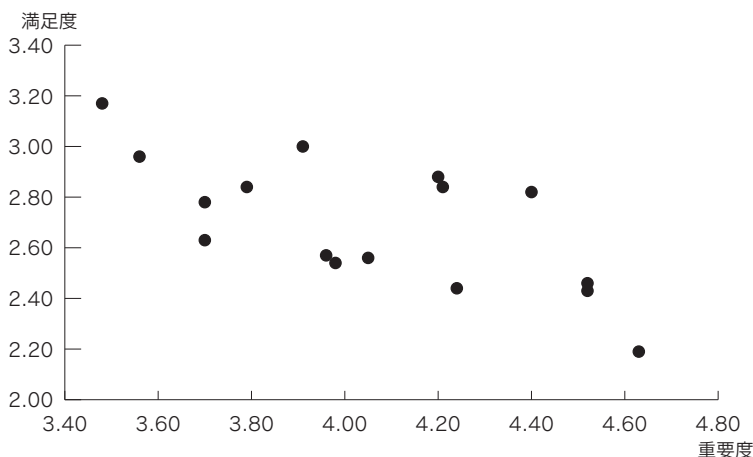
年齢階層別では、60歳未満層でも全体とほぼ同様に「海上交通の改善」（4.66）、「医療・福祉の充実」（4.64）、「治安・防災対策の充実」（4.50）は4.50を超えて高い。一方、下位では「芸術祭の継続的な開催」（3.52）、「漁業の振興」（3.70）、「観光業の振興」（3.77）、「公共事業の充実」（3.77）が比較的低く、これも全体とほぼ同様である。60歳以上層では、4.50を超えているのは「医療・福祉の充実」（4.63）、「新型コロナウイルス対策の充実」（4.54）であり、全体と同様である。下位では「芸術祭の継続的な開催」（3.45）、「観光業の振興」（3.47）、「移住対策の充実」（3.55）、「漁業の振興」（3.71）であり、全体と同じである。ただし、満足度と同様に、「移住対策の充実」は60歳未満

層では低くなく、この項目の平均の差が年齢階層別では最も大きい。60歳未満層にとって移住対策は重要であることがわかる。

瀬戸芸との関わりのありなしでは、あり層でも全体とほぼ同様に「医療・福祉の充実」(4.60)、「海上交通の改善」(4.56)は4.50を超えて高い。一方、下位では「芸術祭の継続的な開催」(3.65)、「観光業の振興」(3.67)、「漁業の振興」(3.68)が比較的低く、これも全体とほぼ同様である。なし層でも「新型コロナウイルス対策の充実」(4.72)、「医療・福祉の充実」(4.70)、「海上交通の改善」(4.55)、「治安・防災対策の充実」(4.53)は4.50を超えて高い。下位では「芸術祭の継続的な開催」(3.17)、「観光業の振興」(3.40)、「移住対策の充実」(3.49)が比較的低い。また、あり層となし層とで顕著な差があるものは「芸術祭の継続的な開催」(差0.48)であり、あり層は瀬戸芸の継続的な開催を望んでいる人が多い。他には「移住対策の充実」(差0.37)、「新型コロナウイルス対策の充実」(差0.27)に差があり、「移住対策の充実」ではあり層が、「新型コロナウイルス対策の充実」ではなし層のほうが重要度が高い。

第2図は第22表・第23表で検討した重要度と満足度の散布図をみたものである。図中の点は豊島での生活に関する各取組における全体の平均を表してい

第2図 重要度と満足度の散布図



る。これによると、重要度が高い項目ほど満足度が低く、負の相関関係にあることがわかる（ピアソンの相関係数 -0.690 。1%水準で統計学的に有意）。重要度が最も低い「芸術祭の継続的な開催」の満足度が最も高く、次いで重要度が低い「観光業の振興」の満足度は3番目に高い。一方で、重要度の最も高い「医療・福祉の充実」の満足度が最も低く、次いで重要度の高い「海上交通の改善」の満足度が低い。このことは行政による取組が住民に評価されていないことを意味している。

「課題の設定」の課題③「定住対策面での事業効果」について、住民の評価はかなり厳しいと言わざるを得ない。

②豊島での生活（因子分析）

次に、豊島での生活に関する各取組の満足度について因子分析を行い、因子をみていく。第15表の16項目で因子分析を行ったところ（主因子法、プロマックス回転。因子数の決定は固有値1以上を基準）、3つの因子が抽出された。因子負荷量がいずれの因子にも0.4未満であった「⑪環境事業の推進」、 「⑭漁業の振興」を除外し、再度因子分析を行った。その結果、2因子が抽出された。第1因子のクロンバック α 係数をチェックしたところ、「⑮芸術祭の継続的な開催」の修正済み項目合計相関が0.5未満（0.484）であったため除外し、再び因子分析を行った。その結果、2因子が抽出された。第1因子、第2因子のクロンバック α 係数はそれぞれ0.854、0.802であり、十分な信頼性を確認できた（第24表参照）。

第1因子は「②海上交通の改善」、 「③子育て・教育環境の充実」、 「⑨公共事業の充実」、 「①医療・福祉の充実」など生活全般に関わることから「暮らし」因子とした。第2因子は「⑬移住対策の充実」、 「⑫伝統文化の継承」などから「定住・文化」因子とした。

第24表 因子分析（豊島での生活に関する各取組の満足度）

	第1因子 「暮らし」 因子	第2因子 「定住・文化」 因子
②海上交通の改善	.757	-.130
③子育て・教育環境の充実	.709	.019
⑩島内交通の改善	.694	-.003
⑨公共事業の充実	.654	.025
④自然環境の保全・再生	.637	.065
①医療・福祉の充実	.557	.068
⑯新型コロナ対策の充実	.459	.226
⑤農業の振興	.451	.197
⑬移住対策の充実	-.108	.883
⑫伝統文化の継承	.011	.816
⑭観光業の振興	.083	.553
⑦相互扶助の強化	.124	.540
クロンバック α 係数	.854	.802
因子相関	.652	

注：主因子法，プロマックス回転

③生活満足度等（5段階評価）

第25表は「豊島での生活に満足しているか」（生活満足度）、「これからも豊島に住み続けたいと思うか」（居住継続意向）について、それぞれ5段階評価で尋ねたものである。これによると、全体ではいずれも平均は3.00を超えて

第25表 豊島での生活

	全体	60歳未満	60歳以上	t検定	瀬戸芸 関わりあり	関わりなし	t検定
豊島での生活の満足度	3.56	3.34	3.67		3.68	3.42	
豊島での居住継続意向	3.87	3.50	4.02	**	3.93	3.74	

注：**は1%水準で有意。

おり、居住継続意向（3.87）、生活満足度（3.56）の順で高い。年齢階層別では、60歳以上層は全体平均よりも高いのに対して、60歳未満層はいずれも低い。とくに居住継続意向では年齢階層別の差が大きい。高齢になると、居住継続意向が高くなることがわかる。瀬戸芸との関わりのありなしでは、あり層がいずれもなし層より高いが、顕著な差ではない。

また、第26表・第27表で各質問への5段階評価の回答比率をみると、生活満足度は全体では「まあそう思う」、「そう思う」の合計が61.7%と高く、その一方で「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計が18.2%と不満層は2割弱である（第26表参照）。年齢階層別では、「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計では、全体と同じで60歳未満層も60歳以上層も大きな違いはないが、「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計では60歳未満層が22.7%であり、60歳以上層の15.6%と比べてやや高い。瀬戸芸との関わりのありなしでは、あり層は「まあそう思う」、「そう思う」の合計が68.6%と高く、「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計が10.1%と低いのに対して、なし層では「まあそう思う」、「そう思う」の合計が55.3%と低く、「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計が30.4%とかなり高い。

第26表 豊島での生活に満足しているか（5段階評価）

	全 体		60歳未満		60歳以上		瀬戸芸 関わりあり		関わり なし	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
そう思わない	6	3.9	4	9.1	2	1.8	4	4.5	2	3.6
あまりそう思わない	22	14.3	6	13.6	15	13.8	5	5.6	15	26.8
どちらともいえない	27	17.5	7	15.9	20	18.3	17	19.1	7	12.5
まあそう思う	72	46.8	25	56.8	47	43.1	50	56.2	20	35.7
そう思う	23	14.9	2	4.5	21	19.3	11	12.4	11	19.6
不 明	4	2.6	0	0.0	4	3.7	2	2.2	1	1.8
合 計	154	100.0	44	100.0	109	100.0	89	100.0	56	100.0

注：比率は全体は154人、60歳未満は44人、60歳以上は109人、瀬戸芸関わりありは89人、関わりなしは56人に占める割合。

次に、居住継続意向は全体では「まあそう思う」、「そう思う」の合計が67.6%とかなり高いのに対して、「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計は12.3%と1割程度にとどまる。居住継続意向は高いといえる（第27表参照）。年齢階層別では、「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計では60歳未満層18.1%、60歳以上層10.1%であり、「まあそう思う」、「そう思う」の合計では60歳未満層54.6%、60歳以上層72.4%である。居住継続意向では年齢階層別では大きな差があり、60歳以上層では多くが豊島に住み続けることを考えているのに対して、60歳未満層は住み続けると考えている人が比較的小さいことがわかる。瀬戸芸との関わりのありなしでは、あり層もなし層も大きな違いはないが、「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計ではなし層が17.9%であり、あり層10.1%と比べてやや高い。

第27表 これからも豊島に住み続けたいと思うか（5段階評価）

	全 体		60歳未満		60歳以上		瀬戸芸 関わりあり		関わり なし	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
そう思わない	6	3.9	2	4.5	4	3.7	3	3.4	3	5.4
あまりそう思わない	13	8.4	6	13.6	7	6.4	6	6.7	7	12.5
どちらともいえない	26	16.9	12	27.3	14	12.8	17	19.1	7	12.5
まあそう思う	54	35.1	16	36.4	37	33.9	29	32.6	21	37.5
そう思う	50	32.5	8	18.2	42	38.5	32	36.0	16	28.6
不 明	5	3.2	0	0.0	5	4.6	2	2.2	2	3.6
合 計	154	100.0	44	100.0	109	100.0	89	100.0	56	100.0

注：比率は全体は154人、60歳未満は44人、60歳以上は109人、瀬戸芸関わりありは89人、関わりなしは56人に占める割合。

さらに、豊島の居住継続意向を尋ねる質問では、自由記述で5段階評価での評価理由も尋ねた。記述内容により分類したものが第28表・第29表である。まず、積極的な意見からみる。第28表によると、「生活しやすい・静か・のんびり・自然豊か」といった生活環境に関わるものが20人と最も多い。次いで「豊島が好き・満足している・特徴がある」（10人）という豊島での暮らしへ

第 28 表 居住継続意向についての積極的な意見（自由記述）

	人	%
生活しやすい・静か・のんびり・自然豊か	20	42.6
豊島が好き・満足している・特徴がある	10	21.3
豊島でしか住めない・高齢	9	19.1
豊島が故郷・家がある	7	14.9
その他	1	2.1
合 計	47	100.0

注：比率は記述された意見全体に占める割合。

の愛着・満足に関わるものが多い。他には、「豊島でしか住めない・高齢」（9人）といった比較的消極的なものや、「豊島が故郷・家がある」（7人）といったものがある。積極的な意見としては、生活環境や暮らしへの愛着・満足を主である。

次に、消極的な意見をみる。第 29 表によると、「医療福祉体制の不備・医療費」（10人）、「生活不便」（8人）、「船代・船便少ない」（8人）といった暮らしに関わるものが多い。これらのことが居住継続意向を評価する理由となっていることがわかる。

第 29 表 居住継続意向についての消極的な意見（自由記述）

	人	%
医療福祉体制の不備・医療費	10	37.0
生活不便	7	25.9
船代・船便少ない	5	18.5
住民の考え方・閉塞感	2	7.4
他に住むところがある	2	7.4
その他	1	3.7
合 計	27	100.0

注：比率は記述された意見全体に占める割合。

④生活満足度等（因子分析）

次に、「豊島での瀬戸芸に満足しているか」（生活満足度）、「これからも豊島に住み続けたいと思うか」（居住継続意向）について、因子分析を行ったところ（主因子法、プロマックス回転。因子数の決定は固有値 1 以上を基準）、1 つの因子が抽出された。因子のクロンバック α 係数は 0.742 であり、十分な信頼性を確認できた。「満足・継続」因子とした（第 30 表参照）。

第 30 表 因子分析（生活満足度・居住継続意向）

	第 1 因子 「満足・継続」 因子	因子抽出後 共通性
居住継続意向	.769	.592
生活満足度	.769	.592
因子寄与率（％）	59.187	
クロンバック α 係数	.742	

因子抽出法：主因子法

⑤生活満足度等（重回帰分析）

生活満足度を規定する要因を明らかにすべく重回帰分析を行った。第 25 表でみた「暮らし」因子、「定住・文化」因子を説明変数、第 30 表でみた「満足・継続」因子を被説明変数として、それぞれの因子得点を用いて線形の重回帰分析を行った（第 31 表参照）。分析の結果、決定係数は高くないが、「満足・継続」因子に影響を与えているのは「暮らし」因子である。また、「豊島での生

第 31 表 「満足・継続」因子を被説明変数とする重回帰分析

	標準化係数	t 値	t 検定
(定数)	—	— .035	
「暮らし」因子	.398	3.443	**
「定住・文化」因子	.136	1.176	
自由度調整済み決定係数 $R^2 = .245$			

注：** は 1 % 水準で有意。

活に満足しているか」(生活満足度)のみを被説明変数として、重回帰分析を行った結果、決定係数は少し上がり、生活満足度に影響を与えているのは同様に「暮らし」因子である(第32表参照)。いずれも決定係数が高くなく、しかも「暮らし」因子を構成する項目が「②海上交通の改善」,「③子育て・教育環境の充実」,「⑨公共事業の充実」,「①医療・福祉の充実」などの生活全般に関わることから、重回帰分析の結果は参考程度にとどめる。

第32表 生活満足度を被説明変数とする重回帰分析

	標準化係数	t 値	t 検定
(定数)	-	43.839	***
「暮らし」因子	.371	3.213	**
「定住・文化」因子	.174	1.508	
自由度調整済み決定係数 $R^2 = .250$			

注：*** は 0.1%水準, ** は 1%水準で有意。

(6) 分析のまとめ

これまでの分析をまとめると以下ようになる。

- ・瀬戸芸との関わりについては、全体では「今回も以前もなかった」が36.4%と最も高い(以前または今回関わりがあった人の比率の合計は63.6%である)。年齢階層別では差が顕著であり、60歳未満層では以前または今回関わりがあった人の比率の合計は高いのに対して、60歳以上層ではそれほど高くない。さらに、60歳以上層では「以前はあったが今はない」が多く、高齢化により関わりがなくなった人が多いことが想定される。
- ・瀬戸芸による変化については、移住者の増加が最も評価が高く、他には訪問客の増加による島の知名度や活気が出たことの評価が高い。また、海や島の景色や自然の良さも評価が高い。その一方で、友人・知人の増加、会話の増加、豊島の歴史や文化の伝達、価値観の変化、仕事の増加については評価が低い。瀬戸芸との関わりのありなしでは、あり層はなし層に比べて評価が顕著に高い。

- ・瀬戸芸の満足度等については、全体の平均は3.00を超えており、瀬戸芸の継続意向、瀬戸芸の満足度、瀬戸芸による好ましい変化の順で高い。いずれも肯定的な意見が多くを占める一方で、否定的な人も無視できないほど存在している。瀬戸芸との関わりのありなしでは、ここでもあり層はなし層に比べて評価が顕著に高い。
- ・「交流」因子、「活性化」因子、「島の魅力」因子、「環境」因子を説明変数、「満足・継続」因子を被説明変数として、重回帰分析を行った結果、「満足・継続」因子に影響を与えているのは「交流」、「活性化」、「環境」の3因子であり、中でも「活性化」因子が最も効いている。
- ・香川県や土庄町役場による豊島での生活に関する取組については、満足度の評価は全般的に低い。その中で最も高いのは「芸術祭の継続的な開催」であり、一方で「医療・福祉の充実」、「海上交通の改善」、「島内交通の改善」、「新型コロナウイルス対策の充実」の医療・福祉、公共交通が平均2.50を下回り、かなり低い。年齢階層別では「移住対策の充実」の評価に差があり、60歳未満層にとって移住対策は不満であるが、60歳以上層ではそこまで不満が大きいわけではない。
- ・豊島での生活に関する取組の重要度の評価は全般的に高い。とくに平均4.50を超えた「医療・福祉の充実」、「海上交通の改善」、「新型コロナウイルス対策の充実」は非常に高い。これらは上記の満足度では下位にあったもので、重要であるにも関わらず、満足度は低い。一方、比較的评价の低いのは「芸術祭の継続的な開催」、「観光業の振興」であり、これらは重要度は低いものの満足度は高いという負の相関関係になっている。
- ・豊島での満足度等については、全体の平均は3.00を超えており、居住継続意向、生活満足度の順で高い。居住継続意向では年齢階層別の差が大きく、高齢になると居住継続意向が高くなる。
- ・「暮らし」因子、「定住・文化」因子を説明変数、「満足・継続」因子を被説明変数として、重回帰分析を行った結果、「満足・継続」因子に影響を与えているのは「暮らし」因子であるが、決定係数は高くない。

結びに代えて

本研究で明らかになったことについて「課題の設定」を中心にふりかえる。

①(i)芸術祭に対して、多くの地域住民は肯定的に受け入れているか。(ii)芸術祭の評価を規定する要因は何か。

(i)については、41%~49%と半分以下ではあるものの、多くの人が肯定的に受け入れていた。ただし、否定的な人も23%~29%と無視できないほど存在していた。

(ii)については、重回帰分析を行った結果、「満足・継続」因子に影響を与えているのは「交流」、「活性化」、「環境」の3因子であり、中でも「島に活気が出た」、「島内に若い移住者が増えた」などの評価に影響を与える「活性化」因子が最も効いていることがわかった。

②(i)芸術祭に関わりを持った人は、新しい知り合いができたり、交流が促進されたか。(ii)芸術祭への評価に影響しているか。(iii)とくにアーティストやボランティアと関わりを持った人ではどうか。

(i)について。瀬戸芸との関わりは、瀬戸芸が豊島やあなた自身にもたらした変化について、関わりのなかった人と比べて積極的な評価を与えていた。ただし、「島内に知人・友人が増えた」等の新しい知り合いができたかに関わる質問項目の平均は3.00前後であり、高いものではなかった。

(ii)については、瀬戸芸との関わりが、継続意向、満足度、好ましい変化のいずれについても積極的な評価を与えていた。

(iii)については、瀬戸芸と関わりのある人とアーティストまたはこえび隊と交流のあった人とがほぼ重なるので、(i)、(ii)とも同様のことがいえた。

③定住対策面での事業効果はどうか。

行政による豊島での生活に関する各取組を分析した結果、重要度が高い項目ほど満足度が低く、負の相関関係にあった。例えば、重要度が最も低い「芸術

祭の継続的な開催」の満足度が最も高い一方で、重要度の最も高い「医療・福祉の充実」の満足度が最も低かった。住民の評価はかなり厳しいといわざるを得ず、行政による取組が住民に評価されていないことを意味している。瀬戸芸の継続意向は強いいため、瀬戸芸は継続しつつも、豊島での生活全般に関わる施策の充実も求められる。

④地域住民は移住者の増加をどう評価しているか。

瀬戸芸以降の近年の豊島における移住者の増加が、瀬戸芸のもたらした変化として最も高く評価されていた。ただし、行政による移住対策は、とくに60歳未満層にとって重要度が高いにも関わらず満足度が低く、移住者の多くが60歳未満であることから今後検討すべき政策課題である。

最後に本研究で明らかにできなかった点についてもみておく。それは原(2012)における豊島での2010年調査の結果と比較したとき、今回の2020年調査のほうが評価が全般的に低いということである。前回調査は豊島の一集落を聞取形式によって調査したのに対して、今回は豊島全体にアンケート調査票の郵送というように対象の大きさも調査方法も異なっているため、厳密には比較できない。だが、それにしても今回の評価の低さを考えたとき、その原因として以下のことが考えられる。1つは今回の調査がコロナ禍での調査であったことである。豊島は高齢者の多い島であるため、感染者が出た場合のリスクが高く、コロナ禍において観光客に対する視線が厳しい。聞取調査の実施を断念せざるを得なかったのもそのためであるが、その視線の厳しさがアンケート調査にも少なからず反映した可能性は否定できない。もう1つは瀬戸芸が「観光化」した可能性である。前回調査は第1回の瀬戸芸であり、作品やアーティスト、こえび隊、観光客に住民も新鮮な気持ちで臨み、刺激や変化も大きかったと想定される。だが、4回目ともなると観光地としての「慣れ」のようなものが出てくると考えられる。瀬戸芸継続意向の評価理由を尋ねた第17表・第18表の記述内容は「移住者が増えた」以外はほぼ原(2012)においても確認され

た内容である。いずれにしても聞取調査などさらなる調査や分析の深掘りが必要である。今後の課題としたい。

謝辞

コロナ禍の大変な状況の中、アンケートに回答して下さった豊島住民の皆様には、感謝の念にたえません。本当にありがとうございました。

なお、本研究は科学研究費（基盤研究(C)、地域芸術祭による瀬戸内島しょ部の社会構造と「まなざし」の変化、研究代表者：原直行、課題番号 17K02114）の助成を受けたものである。

参 考 文 献

- ・勝村（松本）文子ほか（2008）「住民によるアートプロジェクトの評価とその社会的要因：大地の芸術祭 妻有トリエンナーレを事例として」『文化経済学』 6（1）
- ・鷺見英司（2012）「越後妻有大地の芸術祭の地域活性化効果とソーシャル・キャピタルに関する調査研究」『新潟大学経済論集』 89
- ・鷺見英司（2013）「越後妻有大地の芸術祭 2012 に関する質問紙調査報告」『新潟大学経済論集』 94
- ・鷺見英司（2014）「大地の芸術祭とソーシャル・キャピタル」, 澤村明編著『アートは地域を変えたか：越後妻有大地の芸術祭の 13 年：2000-2012』第 4 章, 慶應義塾大学出版会
- ・瀬戸内国際芸術祭実行委員会（2010）「瀬戸内国際芸術祭 2010 総括報告」
- ・瀬戸内国際芸術祭実行委員会（2013）「瀬戸内国際芸術祭 2013 総括報告」
- ・瀬戸内国際芸術祭実行委員会（2017）「瀬戸内国際芸術祭 2016 総括報告」
- ・瀬戸内国際芸術祭実行委員会（2020）「瀬戸内国際芸術祭 2019 総括報告」
- ・日本銀行高松支店・瀬戸内国際芸術祭実行委員会（2020）「「瀬戸内国際芸術祭 2019」開催に伴う経済波及効果」
- ・原直行（2012）「アートによる地域活性化の意義：豊島における瀬戸内国際芸術祭を事例として」『香川大学経済論叢』 85（1-2）
- ・原直行（2020）「瀬戸内国際芸術祭におけるインバウンド観光客の実態分析」『地域活性化学会 2020 年度研究大会論文集』
- ・水野佑哉・原直行（2020）「豊島の店舗変遷からみる瀬戸内国際芸術祭の影響」香川大学経済学部 Working Paper Series, No. 232
- ・室井研二（2012）「瀬戸内国際芸術祭の住民評価とその規定因」, 香川大学瀬戸内圏研究センター『瀬戸内海観光と国際芸術祭』, 美巧社

- ・室井研二（2013）「離島の振興とアートプロジェクト－『瀬戸内国際芸術祭』の構想と帰結－」『地域社会学会年報』第25集
- ・山本暁美（2020）「瀬戸内国際芸術祭における訪問者の意識動向」『地域活性学会2020年度研究大会論文集』

参考サイト

- ・豊島観光ナビ <https://teshima-navi.jp/>（2020年12月11日現在）